

さらに安全なまちに 新しいまちづくりについて区長提言

池袋本町防災まちづくりの会と本町防災ひろばの会の代表者7名が、1月18日に、これまで検討してきた「新しいまちづくりについての提言書」を持って高野区長を訪ねました。池袋本町としては、平成8年の「防災まちづくりについての区長提言」、平成14年の「防災ひろばについての区長提言」に引き続き、3回目の区長提言となります。

会合では、まず大沢会長が提言書の内容を説明し、地区の防災まちづくりがまだ道のり半ばであり、これからも取り組まなければならないことがたくさんあることを訴え、区の積極的な支援をお願いしました。また、委員一人一人が意見や感想を述べて、協力をお願いしました。

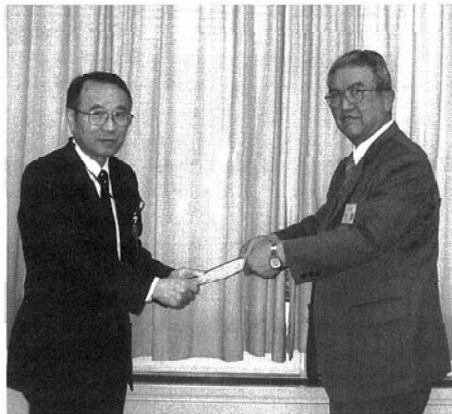
高野区長からは、池袋本町の8町会が大変によくまとまっていることが災害時に役立つことを期待しているとのコメントがありました。また、今回の提案についても限られた予算の中、できるだけのご協力はお願いしたいとのお言葉をいただきました。

また、同席した水島助役や関係部課長からも、提言の主旨を生かすように区としても計画をつくり、居住環境総合整備事業の中で整備を進めていきたいという言葉をいただきました。

新しいまちづくりについて 区からのお知らせ

第35号でお知らせした居住環境総合整備事業の導入に向けての進行状況をお知らせします。

まちづくりの会からいただいた提言書に沿って今後10年間を目標に実施を目指す整備計画を作成して国に提出をいたしました。これは、事業の大枠を示すもので順次事務手続きを進めています。これらの手続きが完了した後は、区が国や都から補助金を受けることが出来るようになり、地区内のひろばや道路の整備などに取り組み易くなります。また、皆さんがご自宅を建て替える際に隣近所の方と一緒に耐火建築物に建て替えるなど、一定の条件を満たすことによって地域の防災性の向上に協力していただいた場合に建て替え資金の一部について助成を行うなど、これまでに池袋本町地区には無かった制度にも取り組めるよう



になります。今後の取り組みとしては、まず地区の皆さんの意見をお伺いし、まちづくり基本計画の作成を進めます。また、それらを踏まえて、例えば施設の管理や運営だけでなく整備の仕方などについてのより具体的な取り組みをまちづくりの会を始めとする地域の皆さんと協議しながら進めていきたいと考えています。

どうなる・どうする

防災まちづくりの会
防災ひろばの会

2つの会の成り立ち

池袋本町防災まちづくりの会と池袋本町防災ひろばの会では、防災生活圏促進事業の終了後の、2つの会をどうするかについて、活発な議論を行っています。

この2つの会は、防災生活圏促進事業を行うために作られました。防災まちづくりの会は、事業に先立ち、区が町会に呼びかけて準備会をつくり、町会などの推薦委員に公募委員を加えて出来上がった組織です。防災ひろばの会は、JR職員住宅跡地に建設する防災公園を検討するために作られた組織で、当初は名称もJR職員住宅跡地検討会とっていました。まちづくりの会の有志と一般公募委員で組織されています。

その後の発展と変化

2つの会は防災生活圏促進事業のために作られたとはいえ、そこにとどまる活動をしてきたわけではありません。防災まちづくりをより広くとらえ、安心して暮らせる環境づくり、地域の人々のつながりづくりをめざしてきました。まちの安全性を高める施設づくりと同時に、防災まちづくり祭を開催し、お年寄りから子ども達まで楽しめるイベントを企画し、また防災公園ができるまでの間、ひろばを暫定的に利用するように要望し、それを実現しました。ひろばの管理については、区とひろばの会が協働で行う体制をつくり、その時から名称をひろばの会としました。

このように、2つの会は事業を行ってきた8年の間に、その時々状況に柔軟に対応しながら活動を継続してきました。

しかし、8年の間にはそこに参加する人々にも変化が訪

れます。防災公園のように、会の目的だった公園整備が延期され、目標を失ってしまう事態も経験しました。区の公共施設の再配置計画によって、ひろば自体が別の使い方になるかもしれないということも起こりました。決して平坦な道ではなかったこの間に、会への参加意識を失ってしまった委員さんがいることもやむを得ないことだと思えます。名簿上の人数に比べて、継続して会に参加されている方は少ないというのが実情です。

まちづくりの継続

来年度から新しい事業に移行しようという時に、これまでの組織のままでよいのか、もっとも別の形、もっとの多くの人が参加しやすいものにできないかというのが、2つの会での議論の中心です。

これまでの経緯があるので、今一生懸命活動している委員を中心に、新しい会をつくるべきだという意見がある一方、2つの会は一旦解散して、全く新しく組織を作るべきだという意見もあります。ただ、みなさんに共通していることは、まちづくりを継続していく必要があることと、それを行うのは住民であるという意識です。

池袋本町地区は、そこに暮らす私たちと、未来も住み続けるであろう子供たちにとって、かけがえのない「まち」です。その「まち」を安全で、活き活きと生活することができるようするにはどうしたらよいか。まちづくりの会が取り組む「まちづくり」とは、それをみんなで考え話し合って、できるところから実現していくことです。

議論はもう少し続きそうです。会として方針ができたところで、まちづくりに参加する方々を募集いたします。

ひろばあれこれ

2000㎡のひろば完成

工事を行ってきた2000㎡のひろばは、工事が少し遅れましたが、3月末には完成の予定です。

使い方を協議中

ひろばの使い方について、近隣の方々と交えて協議を



行っています。3月9日には、まちづくりの会+ひろばの会の合同会に近隣の方々も参加して、意見交換を行いました。すぐ近くのお宅にとっては、ひろばからの埃や音は迷惑のもと。一方、利用者からはもっといろいろな使い方ができないかという提案もあります。

時間を区切って、犬が自由に遊べる広場にしてほしいという犬の愛好者がいる一方、犬のフンに悩まされている方の意見もあります。ひろばの使い方については、区やまちづくりの会が一方的に決めるのではなく、近隣や利用者みなさんと協議を行いながら進めていきます。

ひろばの維持管理は

現在、4000㎡のひろばは、ひろばの会と区が協働で管理を行っています。2000㎡についても同じ体制で行うことが確認されました。当面は2000㎡についても夜間は鍵を閉め、人の出入りができないようにします。

ごあいさつ

豊島区都市整備部住環境整備課長 神田 光一

池袋本町地区で実施している防災生活圏促進事業が、いよいよ3月末で終了いたします。この間、事業にご協力いただいた、防災まちづくりの会をはじめ地域の皆様方に改めて御礼を申し上げます。

8年間の事業の成果として防災広場、防災センター用地の取得、井戸広場の整備等があげられますが、最も大きな成果は、この町に防災まちづくりの組織ができ、防災まちづくり祭の開催や、ニュースの発行など、活発な活動をされたことだと思います。これからも引き続き、防災まちづくりに取り組んでいかれることを期待しています。

平成17年度からは、上池袋地区等で実施している居住環境総合整備事業を池袋本町地区にも導入する予定です。今後とも地域の皆様と協働し、災害に強いまちづくりに取り組んでいきたいと思っておりますので、ご協力の程よろしく申し上げます。